

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安藤 由美	所 属		法文学部 人間科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では、受講生の主体的参加を促す。 ・演習では、履修生に対する個別面談・指導を充実させる。 ・WebClassシステムを活用して、学生への情報提供、授業外学修の確保、成績資料の開示などを充実させる。 ・研究業績の授業への反映させる。 ・修論指導。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では、受講生の主体的参加を促した。 ・演習では、履修生に対する個別指導を充実させたが、面談については課題を残した。 ・WebClassシステムを活用して、学生への情報提供、授業外学修の確保、成績資料の開示などを充実させた。 ・研究業績の授業への反映させた。 ・修論指導を丁寧に行った。 		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合社会調査実施のための科研費助成獲得に向けた準備作業 ・戦争体験ライフストーリーの分析と原稿執筆 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄総合社会調査実施のための科研費助成獲得に向けた準備作業を行った。 ・戦争体験ライフストーリーの分析と原稿を執筆した。(3月刊行予定) 		
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本家族社会学会、日本家族問題研究学会それぞれの編集委員会専門委員 ・沖縄県立看護大学倫理審査専門部会委員としての活動 ・名護市史執筆委員 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・日本家族社会学会、日本家族問題研究学会それぞれの編集委員会専門委員 ・沖縄県立看護大学倫理審査専門部会委員としての活動 ・名護市史執筆委員 		
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学専攻主任としての活動 ・学部内各種委員としての貢献(教育委員会委員) 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学専攻主任としての活動 ・学部内各種委員としての貢献(教育委員会委員) 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		本村 真	所 属		法文学部 人間科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	専門科目(児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文等)を担当する。各講義やゼミにおいて、学生の主体的参加を促す方法やコミュニケーションスキル等の専門スキルを習得させる方法の向上を目指す。		0.25	専門科目として児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文等を担当した。各講義やゼミにおいては、学生の主体的参加を促すグループワークを活用し、チームワークを育むための工夫も行った。また現場実習の受け入れをスムーズに行ってもらうための関連施設における研修(スーパーバイズ研修等を含む)や第三者評価事業への参加にも時間を割いた。
研究	0.25	児童虐待予防等を可能にする地域の支援力や、NPOの実践活動力を高めることを含めた島嶼地域も対象に含む研究を行う。国際沖縄研究所と共同で法文学部が実施する概算要求研究プロジェクト実施にユニットリーダーとして尽力し、平成28年度以降の継続研究による概算要求経費獲得に向けた取り組みも実施する。それ以外に、JSTやRISTEXが公募する外部資金の獲得も目指す。		0.25	児童虐待予防や被虐待児童等への支援をより円滑に行うための支援者のセルフケアの方法について、TREという新たな技法に関する実践研究を深めた。加えて、国際沖縄研究所と共同で実施している法文学部概算要求研究プロジェクト実施に時間を割いた。
社会 貢献	0.15	上記の概算要求プロジェクトによる国際シンポジウムや合宿形式の研修会を実施することで、研究成果の地域社会への貢献をはかる。加えて、沖縄県福祉サービス第三者評価事業推進委員会への参加や、児童養護施設等において義務化された第三者評価事業等への参加、石垣市の「子ども若者支援事業」への参加等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りに寄与する。		0.15	概算要求研究プロジェクトによる島嶼地域の新しい自立に関連する国際シンポジウムの実施とともに、全国5つの離島の住民が参加した「島々のリーダー養成研修」プログラムを実施し、今後のこれら地域の課題解決に向けてのネットワークの構築を達成した。沖縄県福祉サービス第三者評価事業推進委員会への参加や、児童養護施設における第三者評価事業等への参加、石垣市の「子ども若者支援事業」への参加、加えて児童養護施設におけるスーパービジョン活動や職員研修の実施等により、研究成果の地域社会への貢献はあった。
管理 運営	0.25	学長補佐(研究担当)として研究推進機構や関連タスクフォース、産官学連携推進機構、琉球大学コミュニティキャンパス事業等の全学的な取り組みにたずさわる。法文学部内においては「将来計画委員会」や「地域貢献委員会」、その他入試関連業務を含む委員会活動等に積極的に参加する。		0.25	学長補佐(研究担当)として研究推進機構(副機構長)や大学院改組に関するタスクフォース(リーダー)、産官学連携推進機構、琉球大学コミュニティキャンパス事業等の全学的な取り組みに時間を割いた。法文学部内においては「将来計画委員会」や「地域貢献委員会」、その他入試関連業務を含む委員会活動等に積極的に参加した。
進路 指導	0.10	福祉専門コースの学生に対して、進路決定や国家資格の現役合格に向けての支援を実施し、専門科目等を通して早い段階で、就職への意識を高めるような情報の提供も実施していく。加えて、3年次指導教員として、社会学専攻の3年次学生への早期の進路検討の重要性についての啓蒙をはかる。		0.10	社会福祉専門コースの学生に対して、進路決定や国家資格の現役合格に向けての支援を実施した。講義やゼミを通して、現役で資格取得することの意義を実感し、就職への意識を高めるような情報の提供も実施した。3年次指導教員としても早期の進路検討の重要性についての啓蒙をはかった。卒業生が就職している北谷町の福祉関連のスーパーバイザーを務めつつ、今後の求められる人材像を明確にするために、採用したい人材等に関する情報交換も行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		鈴木規之	所 属		法文学部 人間科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、社会学実習Ⅰ・Ⅱ(以上学部)、国際社会学特論・演習(修士)、アジア社会学特論・演習(博士)等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行う。とくに、博士1、3年次の留学生に対する指導を十分に行う。 さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行う。		0.50	国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、社会学実習Ⅰ・Ⅱ(以上学部)、国際社会学特論・演習(修士)、アジア社会学特論・演習(博士)等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行い、とくに、博士1、3年次の留学生に対する指導を十分に行った。 さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導も行った。
研究	0.25	平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費(B)海外「東北タイの開発と市民社会形成—公共圏・社会関係資本・プラチャーコム—」の研究成果を出版する。また、ラオス国立大学との研究交流を実施する。さらに平成28年度からの新規の科研費の獲得をめざす。		0.25	平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費(B)海外「東北タイの開発と市民社会形成—公共圏・社会関係資本・プラチャーコム—」の研究結果の出版準備を行った。また、ラオス国立大学等との研究交流を実施した。さらに平成27年度10月に新規の科研費が追加採択された。
社会貢献	0.05	タイ・ラオスに対する国際貢献を行う。タイについては、2つの大学(コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学)の客員教授としても国際貢献を行う。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たす。		0.05	タイ・ラオスに対する国際貢献を行った。タイについては、2つの大学(コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学)の客員教授として国際セミナーを行った。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たした。
管理運営	0.20	大学院人間社会領域主任、法文学部国際交流委員長として学部内の運営業務を行う。また、全学の国際交流委員および国際交流推進専門委員会座長として管理運営に参加する。		0.20	大学院人間社会領域主任、法文学部国際交流委員長として学部内の運営業務を行い、全学の国際交流委員および国際交流推進専門委員会座長として管理運営に参加した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		鈴木 良		所 属		法文学部 人間科学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 複眼的な視点を養成するため社会福祉学と共に、人文社会科学の視点から授業を行う 生活問題解決力を養成するため、生活問題に関わる具体的事例を検討する授業を行う 講義授業でもグループディスカッションや学生の発表を取り入れ、対話型の授業を行う。 近年の日本及び海外の調査研究の成果を授業内容に反映させる。 実習・演習において学生の個々の目標到達に向けて個別指導を重視する。 社会福祉士国家試験対策についての問い合わせに対しては積極的に対応する。 社会福祉現場での就職相談があれば丁寧に対応する。 				0.40	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉関連制度の諸課題について社会学や障害学など幅広い見地からの解説と議論を行った。 社会福祉士演習・実習指導科目だけではなく講義科目においても事例のアセスメントを重視した。 演習科目だけではなく講義科目でも学生間の議論と学生による発表を取り入れ対話型の授業を行った。 研究の成果である障害者の地域生活や相談援助の実際を紹介し、日本との比較を学生と共に検討した。 演習・実習では個々の学生の特徴や関心に応じて自らの問題関心を掘り下げられるように助言した。 社会福祉士国家試験に向けての特別講義を開催したり、適宜相談に応じたりして、積極的に対応した。 福祉事務所でのケースワークやNPO法人での仕事のメリット・デメリットについて学生に説明をした。 				
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 2015年度の障害学会九州沖縄部会研究会にて発表 日本社会福祉学会あるいは障害学会へ査読付き論文の投稿 日本社会福祉学会の学会誌『社会福祉学』の査読委員の継続 障害学会九州沖縄部会として活動 平成27年度科学研究費助成事業(若手研究B)における研究の遂行 				0.30	<ul style="list-style-type: none"> 2015年7月4日と5日に開催された障害学会九州沖縄部会研究会にて口頭発表を行った。 日本社会福祉学会及び障害学会の学会誌において査読付き論文の掲載が決定した。 日本社会福祉学会の学会誌『社会福祉学』の査読委員として論文の査読を行った。 障害学会九州沖縄部会研究会の研究会開催のための準備を行った。 平成27年度科学研究費助成事業(若手研究B)においてカナダ及び日本における実態調査を行った。 				
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 自立生活センターイルカ(沖縄)のメンバーとカナダ・インクルーシブ教育などの視察 障害学研究会九州沖縄部会に参画 NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターへの連載 沖縄県社会福祉協議会の評議員として活動 県民への障害者の権利についての啓発活動を行う。 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> 2015年9月28日～10月2日に自立生活センターイルカ(沖縄)とカナダ・インクルーシブ教育の視察をした。 障害学研究会九州沖縄部会の研究会開催のために準備の段階から参加した。 NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターにおいて沖縄や福祉のテーマを中心に掲載を継続している。 沖縄県社会福祉協議会の評議員として活動した。 2016年1月30日開催の市民講座に講師として参加し石垣市民への障害者の権利についての啓発を行った。 				
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 全学及び学部内の各種委員会の委員としての役割を適切に遂行する。 専攻会議や教授会など参加が求められる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献する。 所定の入試関連業務を遂行する。 社会福祉士実習関連業務を適切に遂行する。 				0.20	<ul style="list-style-type: none"> 全学及び学部内の各種委員会の委員、及び障害学生支援室の兼務教員として活動を積極的に行った。 専攻会議や教授会など参加が求められる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献した。 センター試験を含めて所定の入試関連業務を遂行した。 厚生労働省への変更届の提出など社会福祉士実習関連業務を適切に遂行した。 				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野入 直美	所 属		法文学部 人間科学科 社会学専攻	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	社会学研究V(働くこととつながることの社会学)では、NPOとのコラボを通じて働くことの多様化を講義と現場学習によって学ぶ授業を提供する。		0.30	社会学研究V(働くこととつながることの社会学)では、NPOとのコラボを通じて働くことの多様化を講義と現場学習によって学ぶ授業を提供した。			
研究	0.40	科研基盤(C)代表者として研究を統括する。その他の科研の分担者として研究を遂行する。異文化間教育学会叢書にライフストーリーについての章を寄稿する。		0.40	科研基盤(C)代表者として研究を統括した。その他の科研の分担者として研究を遂行する。異文化間教育学会叢書にライフストーリーについての章を寄稿した。			
社会貢献	0.20	NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援する。日本語指導教材等開発事業を統括する。		0.20	NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援した。日本語指導教材等開発事業を統括した。			
管理運営	0.05	セクシャル・ハラスメント対策委員として問題の要望と発生後の対応に取り組む。		0.05	セクシャル・ハラスメント対策委員として問題の要望と発生後の対応に取り組んだ。			
進路指導	0.05	学生によるインターンシップ参加を奨励し、サポートする。		0.05	学生によるインターンシップ参加を奨励し、サポートした。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		寺石 悦章		所 属		法文学部 人間科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.60	新規授業の準備はもちろんだが、前年度から継続している授業についても学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行う。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、またゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行う。				0.60	新規に担当する授業、前年度から継続している授業とも、学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行うことができたと考えている。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、またゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行った。				
研究	0.20	研究成果を活用する形で授業用の教科書を執筆するため、数年かけて基礎的な研究を行う。				0.20	研究成果を活用する形で授業用の教科書を執筆するため、数年かけて基礎的な研究を行っている。現在、継続中である。				
社会 貢献	0.15	教員免許更新講習の講座を計5日間程度行う。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会を継続する。				0.15	教員免許更新講習の講座を計5回、5日間行った。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会を継続している。				
管理 運営	0.05	教育委員・自己点検委員などの仕事を適切に遂行する。				0.05	教育委員・自己点検委員などの仕事を適切に遂行できたと考えている。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		稲村 務	所 属		法文学部 人間科学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	グローバル人材を養成すべく、学生の英語、中国語のスキルを上げ、異文化に対する理解を深めさせる。また、学生の進学にも対応できるよう、社会人類学の授業本来のアカデミズムを取り戻すべく、正常化のための大幅な改善を行う。		0.30	実習では中国語を事前学習として15回教え、現地から帰った後も学生と一緒にテープ起こしをするなど学生のスキルアップに努めた。民族誌の授業ではC.GeertzのNegaraを学生と一緒に講読し学生の英語のスキルアップに努めた。カリキュラムにかんしてはやや改善してきているが、来年度は社会人類学本来のカリキュラムにする予定で授業を組んでいる。また、来年度の基礎演習の改善に取り組んでいる。
研究	0.40	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業(学振科学研究費)、山崎香辛料振興財団助成金、住友財団助成金に応募している。東京外国語大学、国立民族学博物館の共同研究員として研究活動を行っており研究発表を行う。基盤A(代表:塚田誠之)の科研費の研究分担者として中国の調査を行う。博士論文の出版、論文集1(査読有)、学会誌1、紀要論文4(内査読3)、学会発表2、東北大学のシンポジウムのコメントリー1、実習報告書1など出版を予定している。		0.40	研究費には残念ながら恵まれなかった。博士論文出版(めこん出版3月15日付)、集刊(査読有)、紀要1、学術誌1(査読有)、シンポジウムコメントリー、実習報告書1が出版された。研究発表としては全国学会2、招待発表2、研究会発表1、国際セミナー1の発表を行った。
社会 貢献	0.10	台湾実習での国際交流、学会発表、実習報告書、シンポジウム報告書などの成果発表を通じて市民に還元したい。また、英語の論文を執筆することで国際的なアピールに努める。科学研究費を獲得できれば市民にも大きく貢献できる企画を考えている。		0.10	実習報告書を発刊し市民に還元した。東北大学でのシンポジウムの成果が発刊され、世界遺産などについての議論を市民に還元した。ラオス研究会では主に医学部の教師や学生にラオス北部の人類学的成果を報告した。英語の論文は紀要に1本書いたが、引き続き努力しており、タイのコンケン大学とのセミナーでも英語で口頭発表を行った。
管理 運営	0.10	図書紀要委員、進路支援委員として各種の調整役にあたっている。遺伝子組み換え審議委員として審査に参加する。		0.10	図書紀要委員として任務を遂行した。進路支援委員として共通教育の科目のキャリア概論のコーディネーターを務めた。遺伝子組み換え審議委員として審査に参加している。
進路 指導	0.10	4年次学生就職100%を目指す。		0.10	学生は1名であり、情報提供、OB,OGの紹介など教員としてできることはやったが、朗報は聞いていない。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			外部にも公開してよい		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		池上 大祐		所 属		法文学部 人間科学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	①共通教育では、汎用性のあるテーマを厳選し、視覚教材・配布教材等を駆使しながらわかりやすい講義を心がける。②専門教育では、学生との対話を重視し、双方向授業および研究指導システムの構築を目指す。③学外の研究会や学習会等、学生に知的交流のできる空間を提供し、専門性の進化・コミュニケーション能力の向上を図る。④学生の希望する進路に応じたキャリア支援を進める。				0.30	①共通教育では「西洋の歴史と文化」を担当。世界史の全体的な構造と個々の事象を相互関連させる思考方法の重要性を、専門外の学生とも共有できたことが、学生の授業コメントから「わかりやすい」という感想も含めて感じられた。②専門教育では、史料講読・西洋史概論・西洋史研究を担当。レポート作成や史料の要約など学生自身の作業も導入したものの、講義形式の授業に偏りすぎたため、双方向性は十分に確保することができなかった。③週1で研究室のゼミをひらき、個々の研究の進捗状況や、ゼミ生による共同研究にも着手している。また、2015年8月31日の九州西洋史学会若手部会の勉強会に、ゼミ生1名が参加するなど、学会とのかかわりをもたせた。④随時、インターンシップ等の情報を提供し、ゼミ生2名が沖縄県庁のインターンシップに参加した。				
研究	0.40	①アメリカの太平洋地域政策史研究及び戦争記憶研究の観点から、特にグアムおよびミクロネシアを事例とした現代史研究を進め、査読付き全国学会誌に最低1本を投稿する。②科研費獲得をめざし、学内の様々な支援プログラムを活用する。③以上の取組により、中長期計画で掲げる「アジア・太平洋島嶼研究」の一角を担う。				0.40	①「福岡における空襲記録運動の系譜」(『平和研究』45号、2015年)[査読付き・全国誌]を発表し、「境界」としてのグアム—民政移行をめぐるアメリカのグアム統治構想の諸相、1945—50年」(『応用言語科学』[明海大学応用言語学学科紀要])と、文献紹介Memories of War(2008)[人間科学紀要]が2016年3月に掲載予定となっている。②本学の若手研究者支援研究費に採択され、それによる研究を推進したり、科研費アドバイザー制度を活用して科研費申請にトライするなど、本学の支援プログラムを活用することができた。③専門のアメリカ現代史という領域をこえて、島嶼研究という観点から、学内外の多様なディシプリンをもつ研究者との交流を、国際沖縄研究所による企画に参加することによって推進することができた。				
社会 貢献	0.20	高大連携歴史教育の観点から、沖縄および全国の高等学校教員との交流および教育実践の収集・データベース構築に努める。				0.20	2015年7月に創設された高天連携歴史教育研究会の会報編集長およびデータベース構築に関する部会のWGメンバーに就任。全国の高校教員とのネットワーク構築の基礎を構築することができた。また「地域から考える世界史プロジェクト」運営委員として、11月に開催された敦賀プロジェクトの運営に携わった。また、大学におけるゼミ活動を事例とした歴史教育実践活動に関する論考「「学生報告」という挑戦—福岡大学西洋史ゼミの取り組みを事例として」を、『新しい教育が開く歴史学』(山川出版社、2015年)にて発表した(共著論文)。ただ、沖縄の学校教員との連携が課題として残った。				
管理 運営	0.10	専攻内の委員業務を責任もって遂行する。				0.10	専攻内の委員業務を責任もって遂行している。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					